

記念誌「相中相高八十年」より  
(大正期 その2)

## 2 創立十五周年記念式典

忘れんとして忘れ難き大正二年！ 木々の緑も色まして、若やか青みたる五月の七日、光我が相馬中学校、創立満十五周年記念の式典は、盛大に挙行された。千載一遇、復たと遇ひ難い盛典のこととて、…如何にして此の慶事を祝す可きか……  
(『学友会雑誌』第十二号)

午前九時、ラッパの音が校内に響き渡り、五百の健児が…、歡喜の色は式場いっぱい溢れた。…オルガンの美音に促されて“君が代”を合唱し、出席者一同の喜びは天にも昇るように感じられ、最高潮に達した。再び桜井校長が登壇して祝辞演説を行い、続いて次の十六氏の祝辞があった。

県知事代理・学務課長	佐藤 剛
相馬子爵代理	相馬 胤真
相馬郡長	石部 豊
双葉郡長	目黒 俊彦
県議会総代・県会議員	島 卯兵衛
郡会議員総代・郡会議員	佐藤 重威
中学校総代・磐城中学校長	西村岸太郎
前校長・現和歌山中学校長	野村 浩一
前校長・現築館中学校長	木村 寔
町村長総代・原町町長	松本 良七
小学校長総代・中村第一小学校長	田村 忠顕
双葉郡長塚村総代・創立功勞者	大森 泰重
卒業生総代	馬場 篤郎
仙台馬陵会総代	愛沢 忠雄
在校生総代	牛渡 整

……祝電を披露し、…祝の歌で式典は終了した。

次いで、表彰式に移り、……。

表彰式が終わり、五分休憩してから、在校生と卒業生合同により連合記念講演会が催された。

二、精神一到何事不成	一年 寺尾 国慶
三、寸陰を惜め	二年 探野小二郎
四、愛郷心	三年 井戸川春三
五、蠟燭を見よ	三年 木幡 齊
六、万事在勉強	五年 斎藤午之介
七、青年と自覚	第九回卒業生 鈴木 武志
八、所感	第六回卒業生 岩井定治郎
九、所感	第六回卒業生 佐藤 繁蔵
十、所感	第六回卒業生 鈴木省二郎

……、拍手に満ちて終了した。生徒一同起立し校歌を合唱し記念講演会を終了した。

午後からは校内を開放し、今日を晴れの舞台、千載一遇の好機と日頃の手なみを発揮すべきはこの時と思い、熱心に準備した理科の実験と博物標本の展示会が行なわれた。……

展示会場の中でも特に好評だったのは、第一号室の「動物標本陳列」、第二号室の「人体解剖模型」、第五号室の「不思議館」、第七号室の「電気の実験」などであった。

第一号室では、説明委員の「これなる動物は北海道は石狩の国石狩川の産にして……」と生気に満ちた説明に見学者は感心して聴きいていた。他に、圧力の実験で卵の浮き沈み、真空管内では鉄砲玉も鳥の羽根も、同一速度で落下する実験が好評を博した。

第二号室では人体解剖の模型を使って、「これなるは大切な胃袋にて大食すると胃拡張になります。」と得々と解説している風景が見られた。

第五号室の不思議館は中に入ると真暗闇で、黒い幕の前に一人の人間が立っている。「あの人は今暫くの中に着物が消え、遂には骨ばかりになるのである。」X光線を使っての実験だったが、現在のようにレントゲンの普及していなかった当時の事だから、見学の老人の中には念仏を唱え出す者もあったという。

第七号室は最も人気のあった会場で、室内は勿論、廊下も見学者で歩くも退くもならないほどの盛況であった。「ここでやりまする実験は、主に暗室でやる電気の実験でして……」と説明も流暢で、しかもわかり易く実験しているのが好評だった。内容も豊富で「ガイスレル管の火花の美」「テスラの電熱の奇」「無線電信の便」「X線の利」など、当時の文明を偲ばせる内容だった。

展示会場での催しの他に、剣道、柔道、相撲の試合が行なわれた。……見学者からはやんやの喝采を受けた。……この記念式典を後世に残すべく、全校生挙げて記念植樹を行った。……

なお、この公開展示会は翌五月八日の午後三時まで続けられ、二日間にわたる総見学者数は二万人を越えたという。

この記念式典の展示会を開催するにあたって学友会特別予算総額は二百六十円（当時）だった。……

1923（大正12）年の満二十五周年記念式においては、提灯行列で祝ったが、東京府立第五中学校長伊藤長七が来校したほか、東大法文学部長佐藤丑五郎、伊藤国定、加納治五郎が来校し講演した。

#### 《転記雑感》

- ・祝辞が16名という多さから、当時の相馬中学の相双地方での存在の大きさが伺える。同時に記念講演会の演題からも、明治から昭和十年代へと続く、取り返しのつかない時代の流れの一コマが垣間見える。
- ・展示会場のX線（1895年発見）の実験や、電気の実験は、当時、最先端のことだったのであろう。
- ・見学者二万人は驚きである。相馬中学への地域の期待と憧れが感じられる。

（9月4日 転記&文責 村山）